

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0972600399		
法人名	医療法人恵生会		
事業所名	グループホーム桜野		
所在地	栃木県さくら市桜野1297-3 (電話) 028-682-1820		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価確定日	平成20年3月11日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人 6 人	常勤4人(うち兼務1人), 非常勤4人, 常勤換算6.3人 常勤5人(うち兼務1人), 非常勤1人, 常勤換算5.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋・準耐火建築造り 1階建ての1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	・水道、電気、ガス—350円/1日 ・日用消耗品—80円/1日 ・持ち込み家電—50円/1日・1点 ・理美容代、おむつ代—実費
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 400 円 夕食 600 円 または1日当たり	昼食 500 円 おやつ 100 円	円

(4) 利用者の概要(平成20年1月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人恵生会 黒須病院、斉藤歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの母体は医療法人であり、至近には同法人の救急指定病院、老人保健施設、訪問看護事業所などがある。管理者のほか1名、あわせて2名の看護師がおり、勤務時間をずらすなどして看護師がホームに滞在している時間が長くなるような体制になっている。理念のほかに、具体的目標、さらに具体的目標にそった行動目標をつくっており、職員の「禁止行動・禁止用語」なども定め、居心地のよいグループホームを目指してケアの実践をしている。1丁目、2丁目とそれぞれに雰囲気が違うが、入居者同士で支えあったり、一人で友人のところに遊びに行ったりする方がいるなど、入居者個々の気持ちにそった支援に努めている。職員の態度は穏やかで、「お国言葉」も交えてやさしく声をかけ、入居者と職員が談笑している姿からも「共同生活者」としての姿勢が垣間見えた。年4回発行しているホームだよりは構成が工夫されており、読み物としても楽しめるつくりになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の機会を有意義なものとして受けとめ、結果について検討して運営に活かすよう努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、全職員で取り組み、管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	市職員(3名)、行政区長、民生委員、幼稚園教諭、保育士、家族の代表(3名)がメンバーになっている。運営推進会議では、ホームの状況や懸案事項を説明し、相談している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年4回発行する広報誌に行事のときなどの入居者の写真を掲載したり、職員の所感を紹介するコーナーも設けている。アルバムも用意している。入居者ごとに2人の職員が担当者となっており、入居者・家族との馴染みの関係も活かしながら状況報告などにも活かしている。金銭を預かる場合には、個別に金銭管理し、出納帳を家族に確認してもらっている。重要事項説明書に事業所、国保連の苦情・相談の受付窓口を明示している。玄関先には意見箱を置いている。管理者は、家族に率直に意見等を言ってもらえるよう伝えている。入居者ごとの担当職員は基本的に変わらず、家族との馴染みの関係の中で話を聞くことにも活かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの菜園で収穫した野菜や花の球根を配ったり、餅つき等のホーム行事や避難訓練の際など、折に触れて管理者が近所のお宅に顔を出している。町内の保育園・幼稚園と毎月のように行ったり来たりする定期的な交流がある。自治会の行事などには積極的に参加していないが、寄付などの協力はしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「居心地のよい、グループホームを目指して」を理念として、「家庭的であたたかな雰囲気」、「その人らしい生き方の尊重」、「利用者、家族、地域にオープン」の具体的目標、さらに具体的目標にそった行動目標をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具体的目標、さらに職員の行動基準ともいうべき行動目標に分かりやすい言葉で落とし込み、「禁止行動・禁止用語」などと共に事務室に掲示している。年2～3回行う管理者と職員との個人面談などでも話をしながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの菜園で収穫した野菜や花の球根を配ったり、餅つき等のホーム行事や避難訓練の際など、折に触れて管理者が近所のお宅に出している。町内の保育園・幼稚園と毎月のように行ったり来たりする定期的な交流がある。自治会の行事などには積極的には参加していないが、寄付などの協力はしている。	○	街中に近いホームの特性も活かして、今後も入居者が地域とのつながりの中での暮らしを実感できるような機会づくりを続けていくことに期待したい。また、年4回発行する広報誌は内容が工夫されているので、入居者のプライバシーに配慮しながら、地域への配布なども検討してみたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の機会を有意義なものとして受けとめ、結果について検討して運営に活かすよう努めている。今回の自己評価は、全職員で取り組み、管理者がまとめた。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員（3名）、行政区長、民生委員、幼稚園教諭、保育士、家族の代表（3名）がメンバーになっている。運営推進会議では、ホームの状況や懸案事項を説明し、相談している。	○	運営推進会議の場をより積極的に活かして、地域の中でのホームの応援団を増やしたり、地域の中での入居者の暮らしやすさなどのサービスの向上につなげていくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、市職員が複数参加してくれることもある。報告・相談ごとのほか、ホームの広報誌を市に届けたり、市の広報誌を使ってホームの公開日をお知らせしたりと連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回発行する広報誌に行事のときなどの入居者の写真を掲載したり、職員の所感を紹介するコーナーも設けている。アルバムも用意している。入居者ごとに2人の職員が担当者となっており、入居者・家族との馴染みの関係も活かしながら状況報告などにも活かしている。金銭を預かる場合には、個別に金銭管理し、出納帳を家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所、国保連の苦情・相談の受付窓口を明示している。玄関先には意見箱を置いている。管理者は、家族に率直に意見等と言ってもらえるよう伝えている。入居者ごとの担当職員は基本的に変わらず、家族との馴染みの関係の中で話を聞くことにも活かされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人では当ホーム以外にも介護保険事業を実施しているが、基本的に異動は考えておらず、担当職員も変えないようにして馴染みの関係づくりに配慮している。退職等で職員が変わる場合には入居者に影響が出ないように配慮している。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課のほかに、職員の誕生日に合わせて管理者との面談の機会を設け、職員の意向の把握などを行っている。外部から研修の案内があったときには、個々の職員にあった研修に参加できるように管理者が調整している。研修受講後は報告書を作成し、回覧等で職員間で内容を共有するよう努めている。	○	外部研修の開催状況などを年間でまとめ、全体的な研修受講状況を把握している。管理者は、更に職員ごとの研修受講履歴作成も検討しているようなので、更に効果的な人材育成に役立てていくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。そのほか、管理者は、研修で知り合った他市のホームと情報交換をしており、職員の交流なども前向きに考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人にも数回ホームに来てもらうようにし、実際に入居者の中に入って雰囲気を感してもらい、その上で入居するかどうかを決めてもらっている。入居者間、職員との関係などにも配慮しながら、当初の介護計画の期間を通常よりも短くしたり、記録もこまめにとるなどして徐々に生活に馴染めるように配慮している。重要事項説明書の留意事項に「本人が気に入ること」をあげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・食事の後片付け、洗濯、掃除、畑仕事、布団干しなど、本人のできることやその時々のお気持ちに配慮しながら一緒に行っている。訪問時にも食後に後片付けを入居者と職員が一緒に行い、職員が入居者に「ありがとうございます」と声をかける姿が見られた。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者からは入居者に時には感情を出してもらうことも大切と考えていること、職員からは本人の気持ちを大切にしたいという言葉が聞かれた。一人でできること、支援があればできること、生活歴、食べ物の好き嫌いなどを聞き取ったり、職員の担当制も活かしながら本人本位の支援を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の担当制を活かし、担当職員が計画の原案を作成し、計画作成担当者（兼管理者）が確認し、計画を作成し、家族に同意をもらっている。定期的な会議やカンファレンスは行っていないが、必要に応じてミニカンファレンスを行ったり、申し送りノートなどで情報交換・共有に努めている。活動状況一覧、健康チェック表など記録の仕方にも工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居当初の計画は3ヶ月を目安に立てており、入居の長い方は1年を目安にし、半年ごとにモニタリングをしている。状況の変化時などは随時見直している。	○	職員間の情報交換・共有に活かし、入居者の生活支援に役立てる意味でも、時間の作り方にも工夫しながら、職員会議やカンファレンスを定期的に設けることにも期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。管理者のほか1名、あわせて2名の看護師がおり、勤務時間をずらすなどして看護師がホームに滞在している時間が長くなるような体制になっている。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの入居者が従前のかかりつけ医にかかっている。基本的には家族の付き添いでの受診になっており、場合によっては手紙や電話などで医師と情報交換しながら適切な医療が受けられるよう配慮している。他事業所の通院サービス利用の支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その時々状況に応じて本人・家族の意向やホームで対応できることを踏まえて検討している。具体的な方針は今のところ決めていない。緊急時の対応については、重要事項説明書に対応方法を明記している。	○	ホームの体制や利用できる社会資源等を検討しながら、本人や家族から希望があったときに、ホームとしてどんな条件があれば、どこまで対応する(できる)といったことを、職員間あるいは運営者も交えて、ホームとしての基本的な方針を話し合っていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に広報誌への写真掲載や居室前への名前表示なども含めた「個人情報使用同意書」を本人・家族と交わしており、記録の保管等も適切に行われている。職員の「禁止行動・禁止用語」を定め、入居者を大切にされた対応を心がけており、職員が入居者に接する態度は穏やかで、やさしい雰囲気です。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、時には職員が見守りながら、趣味活動をしたり、一人で外出する方がいたり一人ひとりのペースを大切にして支援している。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好きなもの嫌いなものをアセスメント様式に残しており、時の経過を踏まえて情報を追加したりしている。入居者のできることやその時の気持ちなどを踏まえながら一緒に調理したり、後片付けをしている。職員は、必要に応じて声をかけたり支援したりしながら入居者と一緒に同じ物を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する方もいるが、1日おき2日おきなど、それぞれの方に合わせた入浴支援をしている。入浴の苦手な方には無理強いをしないように配慮しながら、誘い方を工夫するなどして清潔を保持できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることや得意なこと、好きなことを踏まえながら、家事などの生活の中での役割ごと、人形作り、縫い物、畑仕事などの楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時には職員が見守ったりしながら、一人で散歩や近所に遊びに行く方も多い。月に1～2回の行事的な外出の機会もつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2丁目は日中玄関に鍵をかけていない。1丁目は安全のために基本的に鍵をかけ、その都度鍵をあけて支援している。一人で外出したり、職員が見守りながら散歩をする方もいる。		

グループホーム桜野

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、総合訓練を実施しており、夜間想定での実施も行った。訓練の実施の際には、近所に挨拶、参加の呼びかけをしている。法人の病院、老人保健施設等が至近にあり、応援体制が整っている。管理者は折に触れて近所の家々に顔を出すようにしている。	○	いざという時の法人内の支援体制のほかに、応援体制を複数確保しておくという意味からも、近所の方を誘って避難訓練を行ったり、その際に救命救急法なども取り入れたりしながら、近所の方々と一緒に安全づくりをしていくことにも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎食確認して記録している。水分は大まかな一日の必要量が摂取できるよう配慮している。献立は食事ごとに担当する職員が考えており、料理名や食材を記録し、3ヶ月ごとに法人の管理栄養士にチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入居者が生けた花を飾ったり、室内には入居者の作品や行事の写真などを飾っている。調度や設備などは家庭で使うようなものを使っている。夏場の強い日差しには、よしずを用いたりしている。テレビの音なども適切に配慮され、気になる空気の上のよしみ等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みは自由になっており、入居者によってはタンスや仏壇、冷蔵庫などを持ち込み、それぞれの居室づくりがなされていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。